

そほう
組報

みなみそ

第3号



十方微塵世界の 念仏の衆生をみそなはし

撮取してすてざれば

阿彌陀となづけけたてまつる

百草園よりご影堂素屋根を臨む 手前の大木はメタセコイア

西本願寺の唐門の彫刻をご覧になったことがありますか。唐門の側面、右側に滝があつて一人の男の人が耳に手をやっている彫刻があります。左側は水際に牛が引き連られていて、牛が水際と反対方向を向いている彫刻が彫られています。牛飼いの人が牛に水を飲ませに来ている絵です。中国の故事で、堯という天子が清廉の評判の高い、許由という方に、「許由さん、この国をおまかせしたい」と話すわけです。許由さんは言んだかというところ、「なんと腹立たしいことを耳にした」と言ふんです。耳が汚れたというところで、滝の水で洗っているんです。その下流が左側なんです。牛飼いの人が牛に水を飲ませに来たのに、牛がそっぽを向いているんです。「こんな汚い水は飲めない」といふわけです。「この御門の中のお御堂は、自分の欲を満たすところではありません」と御門に彫つてあるんです。お職間というのには欲を満たすところではないんです。

私たちは限りのある命です。限りのある命なのに、限りのない欲を持っているんです。欲を追い求めていくような方法では、欲求不満でしか終わらないんです。だから欲を満たさうというだけではなく、もっと根本的な問題があるんではないでしょうか。それは私たちの老病死の問題。根本的な問題は、どんなに時代が進んで科学が進み、知恵や知識が豊富になつても、逃れること

されて生きる



はできないんだと思います。」お参りしたら御利益があるとか、そういう欲望を満たさうとするのとは違ふんですよ」と御門の中に示されているんだとお感じいただけたらありがたいと思います。

かつては親子三代同居している家が多かつた。それが今、核家族になつてきました。おじいちゃん、おばあちゃん連と一緒の生活がだんだん無くなつたんです。どういふ宗教的な生活をしてたか、見られなくなつたんです。だから宗教的なことを盾に取られると迷いを生じるんです。心の問題といふか命の問題。そういう問題に触れたときに迷ひ。経済的に行き詰まる、病気を抱える、家庭が面白くない。こつこつときが危ないんですね。先祖の祟りだ、悪霊が憑いていると、脅されるんです。

かつての時代だったら、心配なかつたんです。もし先祖のたたりだと言われたら「あ、この人インチキだ」と言えたんです。「うちのおじいちゃんね、朝起きたら最初にお仏壇開けてね、お仏飯あげてお参りしなかつたらご飯も食べさせてくれなかつたんだ。あのおじいちゃんが迷つてるはずない」と言えたんです。今は、おじいちゃん、おばあちゃん達が、手を合わせながら朝起き、夜寝ていく世界を見てないんですよ。ですから皆さんが、「私の命は阿弥陀さんのお浄土へ参っているんだよ」と、はっきり言える生き方をして欲しい。

たぐえは、『しむやましい死にかた』(五木寛之編・文藝春秋刊/2000年)に「今夜は浄土に参らねどもしむ」といふお話が載っています。

み教えに照ら



私どもが、本来に教えに生かされて生きる、というのがしむしむなのか、ものすごく分かりやすい身近な言葉で、お伝えいただいているのではないかと感じます。

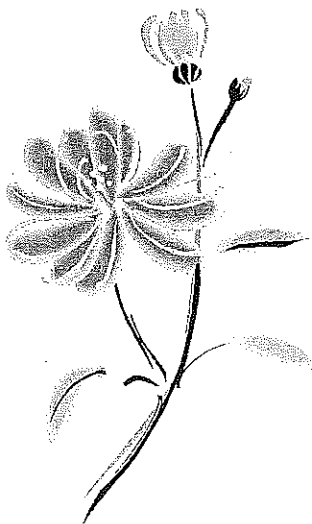
◇ 『仏説阿弥陀経』には、本文の最初に「私たちは西のお浄土に向かうんだよ」とあります。そこから先に進んで「諸上善人俱舍一处」と出てきます。俱(とも)に「一」に舍(あ)わさると書いてあります。必ず命ある世界があるんです。そして何が私たちに大事かというところ「聞説阿弥陀仏執持名号」。南无阿弥陀仏を大事にするのです。それによつてしか私たちの命が会える場所はありません。どこで命が終わるかが、必ずみんなが会える場所がある。そこに参らせていただきますしよ。

あの晩は、能登の春にしては暖かった。よみが隣室にいる私を呼んでいるのに気付いたのは、十時ころであったか。よみは「今夜は、間違ひなく浄土に参らせてもらうよ」といって、自分の寝ている藁ぶとんの下から、大切にしていた胸巻きを引き出させて、取って置けと私に合図する。息をついで年長である私が、妹三人の手本となるように貧乏にひがむことのないように、父母を大切に等々珍しく遺訓めいたことを語り出す。

日ごろとは違う物言いに驚いている私に、「死ぬということは、少しも特別なことでないがやぞ」「人は、阿弥陀さんの所から来て、また阿弥陀さんの所へ帰る」「浄土では皆いっしょになれるがや」と、諭すように、ゆっくり話す。

…(中略)…

「さあ、一足先に参らせてもらうさかい。浄土で待っているさかい」よみと母と、後で入ってきた父と三人が、いつしか念仏を称えていた。よみの念仏が止み、深い息をしたとき、「婆さんが参らしたぞ。仏壇に灯明を上げよう」と父の声。母と私たち四人も、父に従って深夜の勤行が始まった。



二〇〇三年六月九日

南組仏婦研修会(築地別院)

講師 山田 義俊 師

📖 生きる力

♪ 小さい花や大きな花 一つとして同じものはないから

ナンバーワンにならなくてもいい もともと特別な オンリーワン

SMAPの歌う「世界に一つだけの花」の一節です。浄土真宗のみ教えをよく言い表している歌詞であります。自分の生きる意味をナンバーワンに求めても、それが見つかる人はとても希です。多くの方は他と違う特別な自分を見つけられず、生き甲斐そのものを喪失してしまいます。実は探すところが違うのではないのでしょうか。そうではなくて、他者との関わりの中に自分の生きる意味だとか生き甲斐、生きる力を見つけゆく、まさに縁起の法が教えてくれる視点であろうと思います。他のまなこに写っている自分が生きがいになっていくのです。

📖 出あい

少子高齢化社会の難問が広がる中、生きる力を見失っていく人びとが増え続けています。お念仏のみ教えは迷いのなかにある私に、自らを見失うことなく、苦難の中に希望を見いだす生き方を示して下さいます。その歩みを共にする仲間に出会うことは、み教えをいただくことと同じ意味を持つと、お釈迦さま、親鸞さまが教えて下さいました。

ご門主さまはご法話の中でこうお示しく下さっています。今日はここに百名ほどおいでですが、お寺を越えて集い、仲間に出あうということは、本当に大切なんだなと痛感いたします。つまり、阿弥陀さまに出あっていく、人と人とが出あっていく。そういうご縁そのものが、仏さまのみ教えであり、私の生き甲斐を育んでくれているのですね。お寺もそういうご縁の場であることに意味があるのでしょうか。

2003年10月4日 仏教壮年講座／築地別院にて

西本願寺のホームページにもぜひアクセス下さい。「みほとけとともに」のページに今回のご講師、宮本先生のご法話も掲載されています。

URL <http://www2.hongwanji.or.jp/dendou/index.htm>

優しさと温もりのある社会をめざして

お話 宮本義宣 東京教区相談員

五濁悪世の有情の 選択本願信ずれば

不可称不可説不可思議の 功德は行者の身にみたり

「優しさと温もりのある社会をめざして」というテーマを頂きました。今、私が一番強く思うことを今日お話しさせていただき、参考にして頂ければと思います。

「生きる力」ということを、ついつい見失いがちになるのが、もしかしたら現代社会なのではないか、というふうに思います。寿命は今、どんどん延びています。長生きできるのはいいことですが、では、生き甲斐を持って活き活きと生きることが出来るかと言うとどうでしょう。

今日のテーマとして、生きる意味とか生きる力、生き甲斐というようなことを共に考えていきたいと思います。それがひいては「優しさと温もりのある社会」に繋がっていくんだらうと考えます。

いのちのつながり

これあれば彼あり。これ生ずるがゆえに、かれ生ず。

これ無ければ彼なし。これ滅するがゆえに、かれ滅す。

これは、仏教の最もベーシックな教説「縁起の法」であります。あらゆるものはそれぞれ単体で存在するものはないということです。もっともたまたまと思うのでありますが、ではこの縁起によって私たちが生活しているのかと問われれば、あまり自信がないのではないのでしょうか。例えば毎朝、テレビで流される「今日の運勢」。そんなものはあてにならないと思いつつ、そこに迷わされる私がいるのも現実ではないのでしょうか。

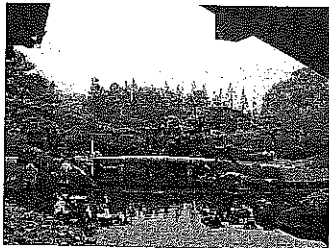
私のいのち、皆さまのいのち、あらゆるいのちは縁起の法によって存在しています。まずここをはっきり押さえておいて、生きる力とか生き甲斐がどういう所にあるんだらうかと言うことを確認できればと思います。



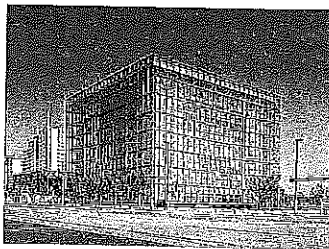
羽田空港に集合、空路岡山へ



そうめんの手延べに挑戦



姫路城西御屋敷敷跡庭園「好古園」



人と防災未来センター外観



親鸞聖人眞影の御眞影(毫撰寺蔵)

今年度の南組団体参拝は「播州路の阿弥陀さまを訪ねて」と題し、岡山・兵庫方面へと向かいました。私は住職の代理として、初めて参加させていただきました。おいしい食事に暖かい温泉と、旅の醍醐味を堪能しました。

☆

ハイライトは旅行の題の通り、小野市にあります浄土寺の国宝、阿弥陀三尊像をお参りしたことです。天気が良ければ夕日を背負った阿弥陀さまにお会いできたのですが、当日は雨が降っており残念ではありましたが、しかし素晴らしいお姿を拝見いたしました。

☆

姫路市の亀山御坊本徳寺では、新撰組ゆかりの本堂をお参りしました。もともと西本願寺北集会所の建物を解体移転したもので、新撰組の隊士による刀傷が今も残っています。

☆

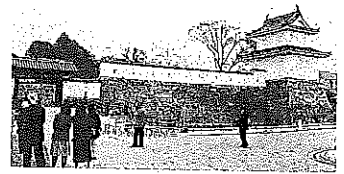
また宝塚市小浜宿にあります毫攝寺には、歴代御門主の遺品が多く現存しており大変興味深かったです。

☆

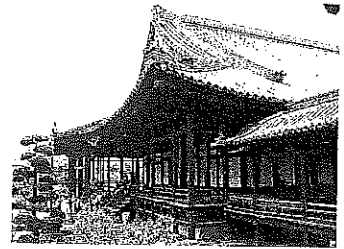
この毫攝寺は阪神・淡路大震災で被災しております。同日訪れた「人と防災未来センター」の展示や毫攝寺御住職のお話から、震災の痛みを教えてくださいました。

☆

人と自然が織りなす歴史と、お念仏の教えが交錯する様子を実感した旅となりました。お寺の旅旅行ならではの魅力が詰まった、素晴らしい体験だったと思います。



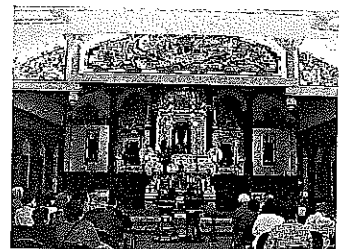
復元された赤穂城大手門・隅櫓



本徳寺本堂



浄土寺の阿弥陀さま



神戸別院(モダン寺)本堂



毫撰寺本堂

播州路の阿弥陀さまを訪ねて

南組団体参拝旅行 2003年4月23日~25日

念仏奉仕団に参加して

南組・浄興寺門徒 清水 はりえ

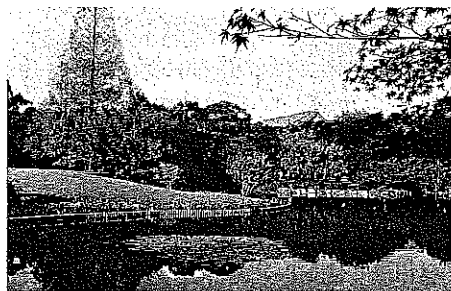


浄興寺より坊守様他三名参加。東京駅発「のぞみ」に乗車、旅行気分を楽しみながら車中で昼食を済ませ京都到着。本願寺総御堂にて南組二十四名は揃い、参拝志納分室二階に集合。午後一時三十分開会式。最初に桃山文化の代表的建造物である国宝の書院、南・北能舞台を見学。二百三畳の対面所では、奉仕団員四百名が抹茶の接待を受け、限られた時間の中でゆとりを味わうひと時でした。つづいて国宝の飛雲閣、唐門を巡り往時を偲ばせていただきました。唐門は日暮門とも言われ、豪華な彫刻です。その中に中国では聖人の出現する前に現れると言われる麒麟がいます。この麒麟がキリンビールの商標になっていると伺いました。御影堂修復工事現場の見学では、大屋根に瓦を葺く作業中でした。事故のない落慶を願っています。ご奉仕は境内の清掃をしました。夜は南組の方々と賑やかに食事を頂き、ゆっくり一日の疲れを癒しました。



二日目、明け始めた静かな街を揃ってお晨朝にお参り。清々しい気分になって朝食。荷物を整えて御本山へ。まずは、

各団体毎に御門主様と記念撮影です。秋晴の下、和みと緊張のひと時でした。今日のご奉仕は御門主様のお住居に近い、騒音もなく時に赤トンボが舞う百華園の清掃です。途中、御門主様の御本堂へのお出ましもお見送りです。最後に御法話を聴聞し、十二時に解散。有意義な二日間でした。この度拝受の御門主様ご染筆色紙「智慧光」の意を聴きわけて、今日の御縁を胸にお念仏の道にいそしみます。



解散後、私達は本谷本廟の浄興寺納骨堂と明著堂のお参りを終えて京都駅へ。ゆっくり昼食を頂き、日が西に傾くころ帰路につきました。次回は皆様も御参加下さい。南組の皆様、大変お世話になりました。お礼申し上げます。 合掌

今年も念仏奉仕団の募集をいたします。日程は
10月25日(月)～26日(火)です。

追って各お寺さまから募集のご案内があろうかと
存じます。楽しくかつ有意義な行事です。皆さまは
非ご参加下さいませようお願い申し上げます。



総代の心得について

南組真光寺住職 多田恵章 師



浄土真宗の生活信条

み仏の誓いを信じ尊いみ名をととなえつつ強く明るく生き抜きます
み仏の光を仰ぎ常にわが身をかえりみて感謝のうちに励みます
み仏の教えにしたがい正しい道を聞きわけてまことのみりをひろめます
み仏の恵みを喜び互にうやまい助け合い社会のために尽くします

総代さまには、お寺のために日頃より心温まるお力添え有難うございます。「心得」と言いますが、これは「浄土真宗の生活信条」が基本になるのではないかと思います。お寺の門徒を代表する総代さんは、率先してこれに沿って生活をしてゆくことが何より大切ではなからうかと思います。

人間から火を取ったら動物です。同じく人間から宗教的なものを外していったら動物にしかならないでしょう。人間に生まれたという尊さと喜びを感じ、今ここに生きているという感謝と敬いの心が日常生活の中になかったら、人は動物になってしまうと感じます。

親鸞聖人は、「浄土真宗」とは宗派の名前ではなく、「真実の教え＝大無量寿経」であると仰いました。この真実の教えを短くまとめたものが、「浄土真宗の生活信条」です。そして「浄土真宗の生活信条」こそが私達が日常生活の中で実践し、実行していかなければならない大きなものではないかと思います。

2003年4月5日 総代研修会 於 善永寺

南組に所属する浄土真宗本願寺派（お西）のお寺です

さいこうじ
西光寺 品川区大井4-22-16 ☎ 3777-6070

さいとくじ
最徳寺 大田区大森北3-18-25 ☎ 3761-6811

とくじょうじ
徳浄寺 大田区大森東1-16-22 ☎ 3761-4127

ごんしょうじ
厳正寺 大田区大森東3-7-27 ☎ 3761-4945

きゅうほうじ
久宝寺 大田区本羽田3-17-1 ☎ 3742-0886

かいがんじ
海岸寺 大田区本羽田3-17-6 ☎ 3742-0921

ふくせんじ
福泉寺 大田区萩中3-27-10 ☎ 3742-2048

こうきょうじ
光教寺 大田区中央4-35-3 ☎ 3771-9408

せんじょうじ
専浄寺 世田谷区等々力6-7-10 ☎ 3701-4753

ほうしんじ
報身寺 大田区萩中1-11-16 ☎ 3738-0870

しょうかくじ
正覚寺 大田区萩中1-13-13 ☎ 3731-9212

えんとくじ
延徳寺 大田区萩中1-12-17 ☎ 3732-1472

ふくしょうじ
福称寺 大田区萩中1-12-20 ☎ 3738-1720

みょうかくじ
妙覚寺 大田区萩中1-12-29 ☎ 3738-3091

ぜんえいじ
善永寺 大田区萩中1-11-24 ☎ 3739-5641

しんこうじ
真光寺 大田区萩中1-13-6 ☎ 3731-5644

じょうこうじ
浄興寺 大田区東矢口2-10-9 ☎ 3759-8673

ゆいしょうじ
唯称寺 品川区小山4-9-15 ☎ 3782-2486

しゅうどうじ
宗導寺 目黒区目黒本町6-19-3 ☎ 3712-6811

さいきょうじ
西教寺 品川区豊町1-8-12 ☎ 3781-6154

ぜんしょうじ
善照寺 大田区南馬込4-9-11 ☎ 3771-8700

えいしょうきょうかい
永正教会 目黒区鷹番2-17-5 ☎ 3714-0767

組報みなみぞ 第3号(2004年3月発行)

編集・発行 浄土真宗本願寺派東京教区南組組長 高輪真澄 大田区萩中1-11-24 善永寺内
印刷所 有限会社 マコト印刷